

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立富屋小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 23人

② 算数 23人

5 留意事項

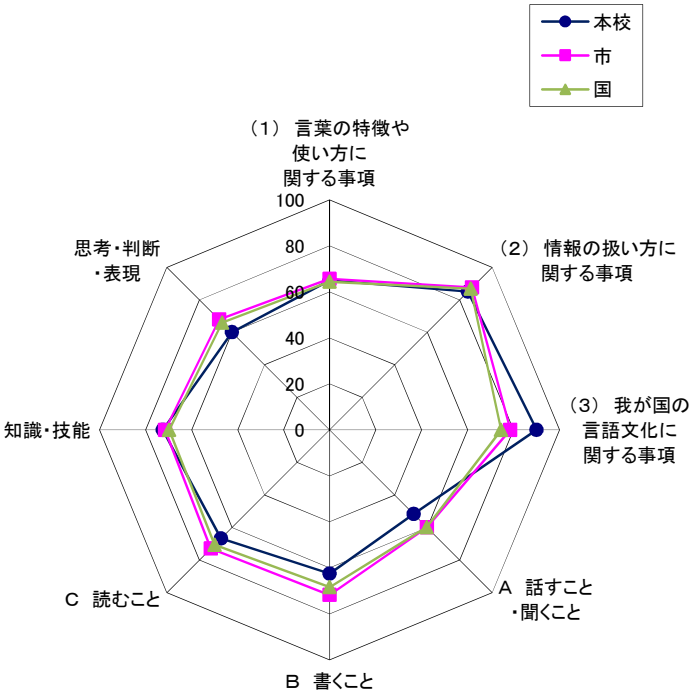
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	65.0	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	85.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	90.0	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	51.7	59.9	59.8
	B 書くこと	62.5	71.8	68.4
	C 読むこと	66.7	72.9	70.7
観点	知識・技能	72.5	71.5	69.8
	思考・判断・表現	60.0	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

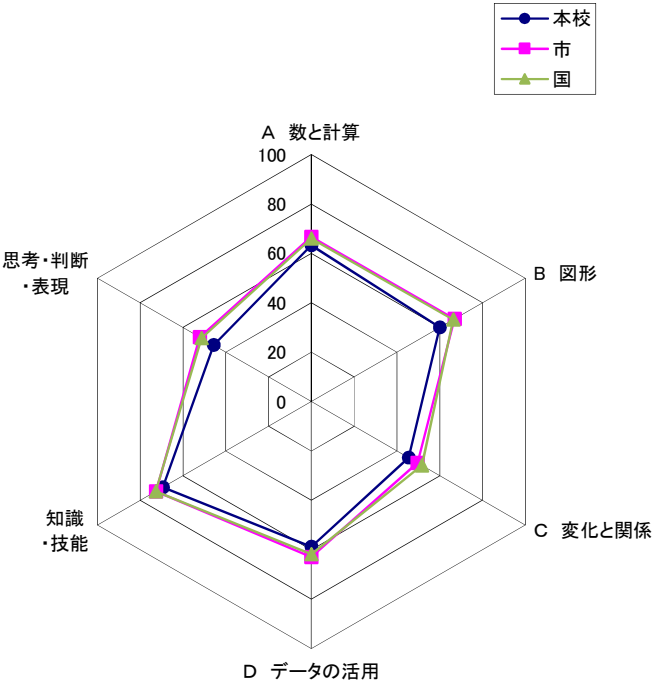
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使いに関する事項	○主語と述語の関係を捉える問題の正答率は、県や全国の平均を上回っている。 ●漢字を文の中で正しく使う問題の正答率は、一部の問題において県や全国の平均を大きく下回った。無解答の割合も多かった。	・文章の中における主語と述語の関係を適宜考えさせる指導をしてきた成果が出ているので、今後も引き続き指導を継続していく。 ・漢字練習やAドリルを活用した漢字の読み書きの復習に取り組み、学習した漢字を使って文章を作るなど、漢字の意味を理解し、文章の中で正しく使える学習方法を工夫する。
(2) 情報の扱い方に 関する事項	●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均をやや下回った。	・授業の中で線や記号を用いながら、情報と情報を関係付ける方法について指導を工夫する。また、話す聞くなどの活動においてメモの書き表し方などについて適宜触れていく。
(3) 我が国の言語文化に 関する事項	○読書が自分の考えを広げるために役立つことに気付けるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく上回った。	・日常的に読書に親しんだり、図書室を利用し司書の先生から本の紹介してもらったりするなどして、そこから自分の考えを広げられている。今後も積極的な読書活動の推進をしていく。
A 話すこと・聞くこと	○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討できるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均をやや上回った。 ●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討できるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。また、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫できるかを問う問題においても、県や全国の平均を下回った。	・国語科の授業に関わらず、ペアワークやグループワークを多く取り入れていく。また、授業内だけでなく日常生活の中から話題を作り出したり、話題について友達と意見を交換したりするような機会をつくることで、児童一人一人が自分なりの考えや意見がもてるようにする。 ・自分の考えが相手に伝わるような表現の工夫を適宜指導していく。また、話し方の基礎基本となる掲示物を活用し、各学年でも適宜触れる機会を設ける。
B 書くこと	●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを問う問題の正答率は、県や全国を大きく下回った。	・各教科の授業において書く機会を多く設け、文章を書くことに慣れさせていく。簡潔に書いたり、詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるよう指導する。
C 読むこと	○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均をやや上回った。しかし、無解答率も高かった。 ●人物像を具体的に想像することができるかを問う問題の正答率は、県や全国の平均を大きく下回った。	・物語文などにおいてどのような人物がどんな様子なのかや、どんなことをしたなどといった具体的なことを授業の中で適宜考えさせるような発問を多くしていく。また、国語科の授業外でも、(3)の我が国の言語文化に関する事項でも書いたような、日常的に読書活動に触れることで、出てくる人物像を考える機会を多くしていく。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	63.3	66.7	66.0
	B 図形	60.0	66.9	66.3
	C 測定			
	D 変化と関係	45.5	49.6	51.7
	E データの活用	58.8	62.9	61.8
観点	知識・技能	69.4	72.6	72.8
	思考・判断・表現	45.7	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○数量の関係を、□を用いた式に表す問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率と同等だった。 ○除数が小数である場合の除法の計算問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を上回った。 ●除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。	・朝の学習の時間などを利用して、加法、減法、乗法、除法が混じった問題に取り組み、反復練習を多く取り入れることで基礎的基本的な計算問題の習熟を図る。 ・文章題を解く際に、問題の場面を具体的にイメージし、問われている数量が何かを意識することで、正しい立式ができるよう支援する。
B 図形	○直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を上回った。 ●直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。 ●球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。	・図形の意味を理解したり、図形の性質を見付けたり、図形の性質を確かめたりすることを、様々な機会において復習させる。 ・図形の面積や体積について、与えられた数値から求めるのではなく、内接する図形や立体の中から数値を見出し求積するなど、図形の様々な見方を養う機会を意図的にもつようにする。
C 変化と関係	○道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を述べる問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率と同等であった。 ●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考える問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。	・日常生活の具体的な場面に対応させながら速さについて理解させたり、図や式などを用いて時間と道のりの関係を表したりすることで速さの意味について理解できるように、習熟を図る。
D データの活用	○二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率をやや上回った。 ○示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表したり、条件に当てはまる内容を述べたりする問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率と同等であった。 ●円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回った。	・日常生活の事象についてや、各教科においても、目的に応じて、様々な表やグラフの読み取りをさせ、グラフからどんな特徴や傾向が読み取れるかや、表の数値が何を表しているかを文章で記述させる機会を設け、習熟を図る。 ・データを分類整理させたり、様々な表やグラフから条件に合った読み取りをさせたりする機会を設け、データの活用力を身に付けさせる。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思いますか」の質問では、95.6%の児童が肯定的な回答であり、県や全国の平均を大きく上回っている。年度当初より最高学年としての役割について意識させる場面を多く設定し、取り組む姿勢について褒める指導を続けてきた。また、振り返りノートにおいてがんばったことを自己評価することを続けてきたことで、児童の自己肯定感が高まってきたと考えられる。今後も継続していきたい。

○「人が困っているときは、すすんで助けていますか」の質問では100%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問では、95.6%の児童が肯定的回答であった。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問でも100%の肯定的回答であった。いじめゼロを目指すための主体的な取組と、学校生活のあらゆる場面の中で、誰かの助けになることや役に立つことへの取組について意識が高いことがうかがえる。今後もいじめゼロ月間の取組などを工夫しながら、いじめの生まれない学校づくりについて、児童が主体的に取り組んでいけるよう指導していく。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いませんか」の質問では、95.6%の児童が肯定的回答であり、県や全国の平均を大きく上回った。総合的な学習の時間の発表活動と地域行事を関連付け（校内民話集会の開催、地域の敬老会、市の伝統文化フェスティバルへの参加など）、地域の伝統行事へ積極的に参加するなど、地域行事に意欲的に参加しようとする児童が多く見られた。今後も地域と共に学ぶ活動の充実を図ることや、地域行事への参加を推奨していきながら、その価値について伝えていきたいと考える。

●「友達関係に満足していますか」の質問では、肯定的な回答が78.2%に留まり、県や全国の平均を下回った。上記の「人が困っているときは、すすんで助けていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」などの質問について肯定的回答の割合が高いことから、望ましい人間関係の在り方については理解しさらに実践できている一方で、自分の求める友達関係に対しては満足できていない児童が一定数いると考えられる。今後も引き続き、幼・保・小・中と限定的かつ継続した人間関係の中で生活していくことの価値や課題について示していきながら、家庭との連携を含めた関係性構築のためのサポートに努めていきたい。

●「国語の勉強は好きですか」の質問で56.5%、「算数の勉強は好きですか」の質問で43.5%、「理科の勉強は好きですか」の質問で60.9%と、肯定的な回答の割合が県や全国の平均を大きく下回っている。一方で、「国語の勉強は大切だと思いますか」、「国語の授業で学習したことは、将来、社会で役に立つと思いますか」の質問でいずれも95.6%、「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業で学習したことは、将来、社会で役に立つと思いますか」の質問ではいずれも100%の肯定的回答であった。学習の必要性については理解しているものの、学習を楽しむことや学習意欲の向上に課題が見られる。学習内容に興味・関心をもたせられるような導入の工夫や、友達との意見交流などを通して視野を広げたり、考えの新たな発見を示唆したりするなど、学習へ取り組むための姿勢や、さらなる意欲の向上を図ってきたい。

宇都宮市立富屋小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
分かりやすく伝える力や、正確に受け止め学び合う力を育てる工夫	一人一人の思いや願いをもとに、共通の視点をもって話し合うことができるよう、事前に自分の考えを書かせることで、伝える力の向上を図る。	「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、72.6%で県の平均より6.5%上回っている。